

新しいASC 養殖基準

担当: Colin Brannen

市場の要望に応じ ASC は「シーバス・タイ・オオニベ」、「ヒラメ類」、そして「熱帯海洋性魚類」という新たな魚種グループの基準草案を作成することになりました。ASC は養殖方法と一定の養殖システムの両方における類似性に基づき、ASC 基準の内容を左右する既存の複数の利害関係者を基盤とし、新しい基準を作り上げる為の実用的なアプローチを取ることになりました。

ヒラメ類およびシーバス・タイ・オオニベの魚種に関しては、他の NGO や産業パートナーのサポートと共に、新しい基準と関係性のある既存の ASC 基準を元に、養殖現場で試験を行いました。シーバス、タイ、オオニベの養殖現場視察は 2017 年始めにギリシャ、スペイン、クロアチア、トルコ、日本にて行われ、ヒラメ類の養殖現場視察は 2016 年末に韓国と中国にて行われました。養殖現場で試験を行う目的は、既存の ASC 基準の内容と、新しい魚種の実際に使われている養殖方法やその技能との間にあるギャップを確認することです。初期の ASC 基準を元に、試験的現場での評価と、オリジナルの ASC 監査マニュアルの適性検査を行いました。これらの基準草案はこのギャップ分析と NGO や養殖漁業界からのインプットや推薦を包括した結果と言えるでしょう。

熱帯海洋性魚類基準草案は、2013 年に始まった WWF コーラルトライアングルプログラムによるアクアカルチャー・ダイアログの集大成です。この 3 年間に及ぶ工程には、加工業者、市民社会組織、海産物仕入れ業者、科学者、学者を含めた約 100 名に及ぶ利害関係者が参加しました。この草案は 2016 年 12 月にインドネシア、バリで行われた会議の後にまとめられました。この草案に含まれる魚種はハタ、フェダイ、バラマンディ、コバンアジです。この基準は他の新しい基準と同様、オリジナルの養殖ダイアログ形式を元に専門技術と知識を基盤として作成されます。

パブリックコメント

一般情報

新しい基準を設立するにあたり、ASC は ISEAL の環境・社会基準設定の為にガイドラインに従っています。基準設定にあたり重要な事は、2 回のパブリックコメント期間をも設けることです。このパブリックコメント期間には（養殖業者や、養殖者以外の）すべての利害関係者が基準の草案に対する意見を提出することができます。

ASC は全ての関係者からの第一基準の草案に関する意見をお待ちしています。

第二次パブリックコメント期間:

開始日: 2017 年 8 月 21 日 (月曜日)

締め切り日: 2017 年 9 月 21 日 (木曜日)

パブリックコメントは 2017 年 9 月 21 日 (木) までに standards@asc-aqua.org のメールまでお送りください。